

「公益社団法人日本地理学会 百周年記念ロゴマーク」審査結果の発表

公益社団法人日本地理学会は、2025年に設立100周年を迎えます。そこで、2025年の100周年に向けて、各種イベントやパブリシティなどのPR等に使用できるロゴマークのデザインを2023年3月24日から7月31日まで募集しました。実に多くの方に関心を寄せていただき、313件もの応募がありました。心より感謝申し上げます。本学会内に設置された日本地理学会百周年記念事業実行委員会において厳正な審査を行った結果、以下のように最優秀賞(1作品)、優秀賞(2作品)、佳作受賞者(13名)を決定いたしました。最優秀賞の作品は、2025年12月まで、日本地理学会が実施する百周年記念イベントや、本学会が認定した各種イベント、さらに各種広報媒体などにおいて、百周年のPR等に広く活用する予定です。

最優秀賞(1作品)

中道耕平氏



作品の説明(ご本人による):

様々なケースに対応出来、且つ100周年である事が一目で分かる、簡潔でわかりやすいマークを目指しました。100を形成する2つの0(ゼロ)には、それぞれ地球と羅針盤をイメージしたピクトグラムをあしらって、「地理」との関連性を想起させています。また、ロゴ全体を囲う四角い罫線は、古地図によく見られる飾り罫を模しています。

優秀賞(2作品) (応募受付順)

石原滉士氏



作品の説明(ご本人による):

コンパスと地球儀をシンボルに据え, 100周年の「100」と地理学(geography)の「Geo」と読めるロゴにまとめました. 青は「清らかな海と空」を, 茶色は「雄大な大地」と「暮らしが育む文化・歴史」を表し, 自然と人間生活との関係性を追求する地理学を表現しています.

鷺山直樹氏



作品の説明(ご本人による):

数字の0を地球と方位磁石をモチーフにデザインしました. 地球の青い部分はGEOGRAPHYの「G」を表しています. Anniversaryを筆記体にする事で100周年という特別感また未来への繋がりを表

現しました。

佳作受賞者(13名) (50音順,敬称略)

有川夏美, 五十嵐千裕, 石附秋彦, 居関孝男, 木元眞一, 工藤規雄, 小西洋治, 小松伸二, 齊藤 豊, 彦根 正, 藤本裕美, 湊 謙二, 山田博之

日本地理学会百周年記念事業実行委員会 講評等

委員長 小口 高
副委員長 三橋浩志
副委員長 長谷川直子

今般, 公益社団法人日本地理学会が2025年の学会百周年に向けた記念ロゴマークの公募を実施しましたところ, 多数の方からご応募いただき, 313件もの作品が集まりました。応募者は, プロのデザイナーの方, デザインを趣味とする一般の方, 地理学を学ぶ学生の方, デザインを学ぶ学生の方, 地理学やデザインに関心を持つ高校生など, 実に多様でした。応募者の居住地も全国に及んでおりました。どうもありがとうございました。実行委員会の予想をはるかに超える応募が集まったため, 当初の予定を超える審査期間となり, 結果発表が11月になりましたことをお詫び申し上げます。

最優秀賞を受賞した中道氏の作品は, 百周年を明瞭に表現しており, 地理学に関係する地球と羅針盤のイメージも分かりやすく表現されています。また, ロゴ全体の囲みは古地図によく見られる飾り罫を使っていますが, 地形図の鉄道記号もイメージできるといった地理学的な工夫を評価いたしました。この作品を, 学会の百周年記念として行う行事の広報などで活用させていただきます。

優秀賞は2名が受賞しました。石原氏の作品も方位磁石と地球をモチーフにしており, さらにGEOの綴りもイメージしたロゴが評価されました。鷲山氏の作品は, アニバーサリーの文字の躍動感や, Gの文字のモチーフなどが評価されました。最優秀賞と優秀賞を受賞された3名には, 賞状と副賞を贈呈いたします。

一方, 高水準の作品が多数集まったことを考慮し, 当初は予定していなかった「佳作」を設けて, 受賞者のお名前を公表することにいたしました。さらに, 表彰対象にはならなかった作品にも優れたものがありました。多くの方が日本地理学会に関心を寄せられ, 素晴らしい作品を応募いただきましたことに, 改めてお礼申し上げます。これを励みにして, 日本地理学会は地理学の振興と地理学の探究に, 今後ともまい進する所存です。今後も, 公益社団法人日本地理学会へのご支援, ご協力, ご指導をよろしくお願い申し上げます。